

どうしよう、こんなメールきちゃったよ
～私のネチケットを考えよう～
教師用ガイドブック

「情報社会へ参画する態度の育成」本実践のもっとも大きなねらいです。これは子どもたちが自らで身に付けていくことができるものではありません。教えなければ気づかずにそのまますぎていってしまうものです。顔の見えない人たちとの交流だからこそ必要な知識、このことを学ぶ場として設定したのが、この「どうしよう、こんなメールきちゃったよ」です。

はじめに

・指導のタイミング

指導のタイミングはそれぞれのクラスの状況に応じて行うとよいでしょう。例えば、実際にこのようなメールが届いたときは、まさにそのときにしなければなりません。また、これからメールを始めようという場合、ある程度やってから本実践を行うのがよいのか、最初に本実践を行ってからメールを使わせるのがよいのかは、そのクラスの子どもたちの状況によります。失敗から学ぶということもありますので、メールを送る相手が担当する教師としっかりとした関係がある方だとしたら前者をお勧めします。反対に、全く知らない相手、また行政などに送る場合は後者でしょう。

・情報社会へ参画する態度の育成

ネット犯罪が続く中、このことが強く教育活動で必要となってきました。顔の見えない相手との交流ではしっかりとしたルール、マナーを守らないとその行為はエスカレートしていきます。本実践では、そのネット上のルール、マナーをネチケットとして扱い、そのネチケットを子どもたち自身で考え、作ってもらうことで守っていこうというものです。顔の見えない相手でもしっかりと相手を意識した交流ができるようにしていくのが本実践のねらいです。

・情報活用能力の育成

本実践では、調べ学習も入ってきます。かなり高度なものです。「ネチケット」に関しては、大人用のページが多く、子どもたちにはなかなか難しいのです。検索しながら辞書を片手に調べている子もあれば、初めからインターネットではなく、学校にある子ども向けの本や資料へいく子もいます。このような状況は、ふだんから休み時間も通してインターネットを活用させる機会を自由につくっていないとなかなかできるものではありません。情報活用能力の育成はまず多くの情報に触れるという体験から始まります。多くの情報から自分のほしい情報を選択し、活用していくことをふだんの授業から活用していく必要があります。

各ステップにおける留意点

STEP 1 問題のあるメールを見て送られた人の気持ちになってみよう（1時間）

名前のない、誹謗中傷が書かれてあるメールを見て話し合う

・ここでは、実際にそのようなメールが届いた場合、そのメールを扱うと一番よいでしょう。このようなメールに対しては、子どもたちが攻撃的になるケースととても消極的になるケースに分かれます。前者では「2倍にして返す」とか「はらがたつ」などひどい争いにつながる可能性があります。逆に後者では、もう「メールはしたくない」とか「こわい」というふうにマイナスイメージを強く持ち、今後情報社会への参画を拒むようになる可能性があります。しかし、中には「どうしてこのようなメールを書いたのか聞く」といったような意見もあります。これらの意見全てをとりあげ、何も学習していない状態から自分だったらどのようにするかを考えてもらいます。そして、学習後にもう一回ふりかえってもらい、自分の変化に気づくという最初のステップがこの話し合いにあります。すべての意見を肯定して、本音を掘り下げていきましょう。

そして、次時へのつながりとして「ネチケツト」という言葉を紹介して終わらしましょう。

STEP 2 私のネチケツトを考えよう（2時間）

ネチケツトについて調べ、「私のネチケツト」をつくる

・ネチケツトという言葉は、インターネットを多く活用している子であれば、ホームページ上のどこかで見ている場合もあります。しかし、具体的な説明はできず、ただ単に言葉を覚えているに過ぎません。ここで、ネチケツトという言葉を出し、簡単に説明し、私のネチケツトづくりをすることで具体的にどういうことなのかということを理解します。

・ネチケツトといっても様々です。メールやホームページ、著作権、など様々なテーマが設定できます。これらは子どもたちからは自然にでてきませんので、調べるまえには教師から上記のようないろいろなテーマを紹介するとよいでしょう。しかし、やはりメール経験が豊富な子ほど、テーマはでてきます。基本的にはまずひとりひとり調べ活動を行い個別に私のネチケツトを作り、その後グループの話し合いになります。クラスの状況に応じてはこの時点からグループで活動する方法もよいでしょう。

・調べる方法

テーマが難しいので、ある程度資料を用意してあげるとよいでしょう。また、資料に関しては大人用のものが多く、なかなか子ども用がありません。だからこそ、自分たちで子ども用ネチケツトを作ろうという目標を立てるのもよいでしょう。

・CD-ROM「情報って何だろう？」

・本・資料

・検索エンジン（「ネチケツト」と打ち込むといいでしょう）

GOO・・・・・・ <http://www.goo.ne.jp/>

Y A H O O・・・・・・ <http://www.yahoo.co.jp/>

Y A H O Oきっず・・・ <http://kids.yahoo.co.jp/>

調べたものそのままの言葉ではなく、自分たちの言葉で言い換えられるように言葉かけをしていきます。そして難しい言葉を使う場合は、きちんと説明できるようにすることが基本です。

私のネチケットを発表する

・調べてきた中から自分にとって大切なものを選び、「私のネチケット」を作成します。それをまずグループ内で発表し、グループみんなの総合としての「私のネチケット」を発表し、意見交換します。そして、最終的には、「クラスのネチケット」を作成します。クラスみんなで作ったという実感がありますから子どもたちの心にしっかりと残ります。

STEP 3 メールを送ろう（1時間）

前時で準備したネチケットを元に、メールを送ろう

・前時までに行ってきた活動を確認するための時間です。ここで実際にメールを書き、それが本当にきちんとしたものかどうか確かめます。

・ふだんから何気なく送っていた子も、これから送り始めようという子も一度ワークシート「メール練習シート」を活用して練習します。それをみんなで評価し合い、確かめてからメールを送るようにします。相手は、いつも交流している相手でもいいですし、また教師とするのがいいでしょう。初めての子はやはり知っている人だと安心するので、そこから始めるのが楽しくできるでしょう。

・さらに、学習のふりかえりではワークシート「ふりかえりシート」を活用して、次の学習へのステップにしましょう。また、最初に出会った名前のない誹謗中傷のあるメールに対して学習した結果どのように対応したらよいか考えさせ終わらしましょう。

最後に

・これらはすべて相手が見えない人との交流であるがために起こったことです。今後このような交流は増えてくるでしょう。しかし、このようなマイナス面も多くありますが、子どもたちの成長にとって大きなプラスの面の方が多くあると信じています。